

神奈川県環境農政局長賞

「日本のお米を守りたい」

川崎市立坂戸小学校

5年 齊藤 永翔

「うっ、うまい！」初めて福島でお米を食べた時、ぼくはすごいしよげきを受けた。こんなにお米があまく、おいしいと感じたのは、初めてだ。その時からぼくは、お米に興味を持つようになったのだ。それと同時に、大震災で大きな被害にあった福島のみ農家の方たちは、どんな思いで、どれだけの苦勞をしてお米を作り続けてきたのかを、知りたいとも思った。

日本には、おいしく安全なお米があり、そのお米を、ぼくたちは毎日安心して食べている。そのお米をおいしく食べていられるのには、米農家の人の沢山の苦勞や工夫があることをぼくは知った。お米について自由研究で調べてみて、知らない事やおどろくことが山ほどあり、お米の大切さや、農家の人のお米に対する情熱や強い思いを改めて感じられた。

まず最初に、お米づくりの土台となる肥料づくりや、土づくりをしている人たちがいることにおどろいた。その人たちは、米農家の人をかげで支えてがんばっていることを知り、その支えがあるからこそ、お米が出来る事に感動した。

次に、おいしく安全なお米を作るために、さまざまなさいばい法を研究し、何十年もの長い月日をかけ、安全なお米が出来る事に、ぼくは心を動かされた。昔は、全て手作業で行っていたので、今より多くの時間をついやしていた。しかし、今では機械を使って作業が出来るお米作りに進化させてきた農家の人の知恵がすごいと感じた。

他にも、害虫やざつ草対策のためのアイガモ農法など、沢山の工夫や、発想をして、この安全でおいしいお米が出来るのだ。体力だけでなく、頭も沢山使って仕事をしているという事が分かり、そんなけいした。

そして、この様な米農家の方の強い思いを感じられたので、今まで以上に感しやして、お米を味わって頂こうと思った。

特に福島の方は、自然災害があつて、自分たちの生活すら取りもどすのに大変な中、お米を大切に育てている事が、どんなに大変なことかと思うと、そんなきちようなお米を食べられた事に感しやしたい。ぼくも、どんなに変な状況になつても、強い心であきらめない事を、福島の人から学ばせてもらった。それと同時に、ぼくの心には、震災でひ害にあわれた人たちを少しでも支えることが出来ればうれいなという思いがわいてきた。

そして最後に、安全でおいしいお米を安心して食べていただけるのは、日本の米農家の人のおかげなので、ぼくたち日本人は、昔の人たちの様にお米を食べる機会をもっとふやすべきではないかとぼくは思う。そうすること、米農家を支える事になり、その結果、日本のお米を守る事につながってほしい。